

銀の道探訪マップ⑧



尾道市御調町

世羅町甲山く 尾道市御調町編

宇根を越えてきた銀輸送隊の一行は、御調町の公文に下り、御調川に沿って中心地、市へと向かう。この川には近年まで吊り橋があり、その台座の一部が残っている。江戸時代は、石や板を並べただけの簡単なものであったと想像される。

市の町並みを行くと、街道沿いに金比羅常夜灯や岩井堂の岩屋観音が見え、古道の雰囲気を感じ出している。一行は再びここから上り道を、木ノ庄町畑の峠を目指して行くことになる。

- この区間の主な見どころ
- ・ 良八幡宮
 - ・ 今高野山
 - ・ 今市の古道
 - ・ 世良彦八幡宮
 - ・ 京楽の古道
 - ・ 領家八幡
 - ・ 観音寺（丹下氏歴代總塔）
 - ・ 大名籠の休み場
 - ・ 姥石
 - ・ 宇根の古道
 - ・ 公文の辻堂と常夜灯
 - ・ 高尾の辻堂
 - ・ 圓鰐記念館
 - ・ 御調高校前の常夜灯
 - ・ 市常夜灯
 - ・ 御調川の渡し
 - ・ 市常夜灯
 - ・ 岩屋観音
 - ・ 東畑の古道
 - ・ 畑の古道
 - ・ 西畑の常夜灯

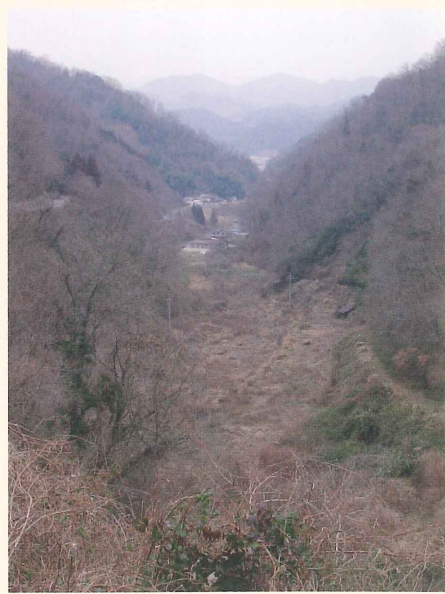
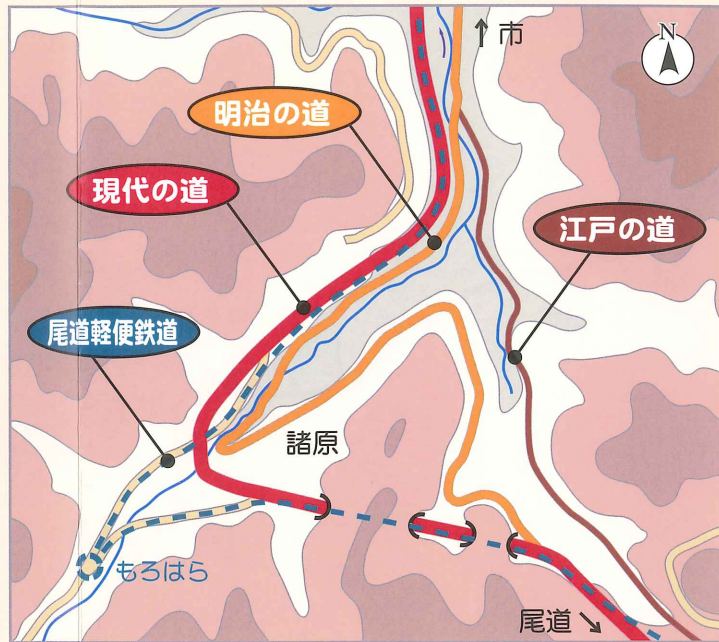


江戸時代、明治、昭和三本の道

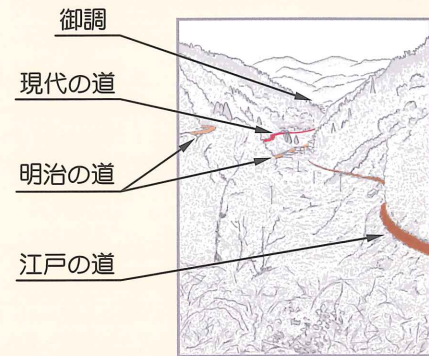
御調町市を過ぎて木ノ庄町畑の峠に向かう道は、江戸時代の街道、明治時代に開発された旧国道、昭和になってから改良された現在の国道と三本並んでいる。

江戸時代の道は、開発された当時の七尺道（二一〇センチ）がそのまま残っている。明治の道は、自動車が上れる勾配を確保するため、大きく迂回しながら上っている。廃線となった尾道軽便鉄道は、諸原駅でスイッチバックをして、峠へ向かって行った。

上から眺めると、それぞれの時代の様子が想像でき、興味深い。



諸原



丹下氏歴代總塔

鑄物師（いもじ）丹下一族

宇津戸の観音寺境内には、「丹下氏歴代總塔」と刻まれた石碑が残されている。

丹下氏は、「河内丹南（かわちたんなん）鑄物師」を祖先とする一族で、中世の頃、宇津戸に來住したと伝えられている。永享四年（一四三二）から康正二年（一四五六）頃に、当時の守護職であった山名氏から、備後國鑄物師大工職（だいくしき）を安堵（あんど）され、近年まで鑄物師として活躍した。丹下氏の名前は広く知られたり、東大寺をはじめ各地の釣り鐘の銘文等にその名を残している。

丹下氏に関する古文書や、当時の鑄造用鑄型などの資・史料は、大田庄歴史館に保管されている。

圓鰐（えんつば）記念館

圓鰐記念館は、御調町出身で日本彫刻界の巨匠「圓鰐勝三」氏の功績をたたえ、文化・芸術の発信基地を目指して、一九九三年に開館した。

館内には、圓鰐氏が旧御調町に寄贈した作品とコレクションが、多数展示されており、氏が彫刻家生活を始めた初期の作品から現在まで、木彫・ブロンズ・石彫・大型の石膏像などを、鑑賞できる。

圓鰐氏の作品は木彫を主流としながらも様々な素材を使い、自由な表現の多様性を生み出している。また作風は夢とロマンに溢れ、雄渾に満ちた独自の境地を拓き、たえず平和を希求する心と生きることへの愛着が現れ、少年時代を過ごした御調の地の思い出が圓鰐作品のバックボーンとなっているようだ。

特殊器台土器



特殊器台土器

特殊器台土器は吉備（岡山県・広島県東部）を中心とした、弥生時代後期の中頃（二世紀頃）以降の墳墓から出土する。筒の上部に皿状の器を置き、祭祀に使用したと考えられている。

一九六八年に御調町貝ヶ原の丘陵地から出土した特殊器台は、比較的古式の様相を示すとともに、ほぼ原型のまま出土したという点で他に例がなく、学術的にも極めて貴重な資料の一つといえる。

本郷平廃寺

御調町の中心部から、御調川に沿って約四キロ上って行くと、本郷平という地区に入る。その廃寺あとから礎石群が発掘された。調査の結果、寺院の規模は相当大きいもので、奈良時代前期には、すでに七堂伽藍の大寺院が建立されていたことがわかった。当時この地域が、御調郡の中心として栄えていたことを物語っている。



礎石



主な連絡先

尾道市御調支所	0848-76-2111
御調町歴史民俗資料館	0848-76-2930
道の駅クロスロードみつぎ	0848-76-3115
圓鰐記念館	0848-76-2888
みつぎ遊々館	0848-76-3423

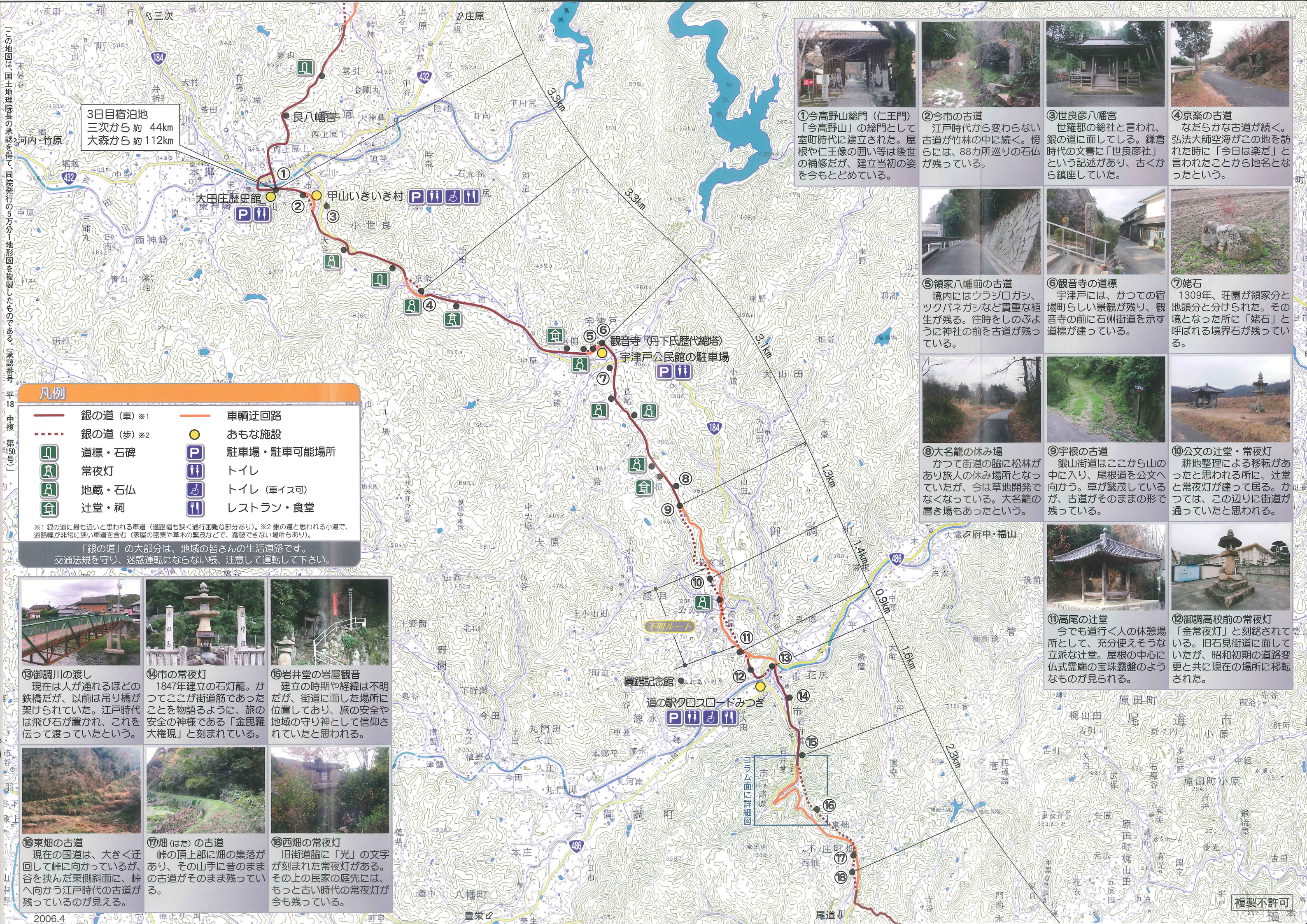
銀の道関連ホームページ

御調町商工会
<http://www.hint.or.jp/~mitugi/rekisi.html#rekisi>



圓鰐記念館

この地図は国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。承認番号 平18中複第150号



3日目宿泊地
三次から約44km
大森から約112km



凡例

	銀の道(車)※1		車輛迂回路
	銀の道(歩)※2		おもな施設
	道標・石碑		駐車場・駐車可能場所
	常夜灯		トイレ
	地蔵・石仏		トイレ(車イス可)
	辻堂・祠		レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道(道路幅も狭く通行困難な部分あり)。※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む(家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり)。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。



13 御調川の渡し
現在は人が通れるほどの鉄橋だが、以前は吊り橋が架けられていた。江戸時代は飛び石が置かれ、これを伝って渡っていたという。



14 市の常夜灯
1847年建立の石灯籠。かつてここが街道筋であったことを物語るように、旅の安全の神様である「金毘羅大権現」と刻まれている。



15 岩井堂の岩屋観音
建立の時期や経緯は不明だが、街道に面した場所に位置しており、旅の安全や地域の守り神として信仰されていたと思われる。



16 東畑の古道
現在の国道は、大きく迂回して峠に向かっているが、谷を挟んだ東側斜面に、峠へ向かう江戸時代の古道が残っているのが見える。



17 畑(はた)の古道
峠の頂上部に畑の集落があり、その山手に昔のままの古道がそのまま残っている。



18 西畑の常夜灯
旧街道脇に「光」の文字が刻まれた常夜灯がある。その上の民家の庭先には、もっと古い時代の常夜灯が今も残っている。

複製不許可